

教授

前田 由紀子

■ 学歴

1. 2010 年 福岡大学博士課程修了

■ 学位

1. 2010 年 博士（教育学）

■ 研究分野

1. 精神看護学
2. 看護教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神科看護師
2. リカバリー
3. ストレngthス

■ 研究課題

1. 精神科看護におけるリカバリーに関する研究
2. 精神科看護師のキャリア形成に関する研究

■ 担当授業科目

1. 精神看護学概論（後期）必須
2. 精神看護方法論（後期）必須
3. 精神看護学演習（前期）必須
4. 精神看護学実習（通年）必須
5. 看護総合演習（通年）必須
6. 看護総合実習（通年）必須
7. 看護学特論（後期）選択
- 8.
- 9.
- 10.

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【精神看護学概論】
	心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看

	護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでグループワークの取り組みを行った。発達段階を 6 つに分けジグソー法を活用した。発表会ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーションの方法を学ぶ機会にもなった。その後、レポートを課し、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。
2.	授業科目名【精神看護方法論】 精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。今年度は、NHK の精神障がいを取り扱った番組を活用し、当事者や家族の気持ちなどグループワークに取り組んだ。グループでディスカッション後に代表グループが発表し意見交換を行った。精神疾患についてノート整理、国家試験問題を解く、精神科関連の著作を読むなどの課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。課題は、複数回に分けて提出させた。内容の不備がある場合、適宜指導を行った。
3.	授業科目名【精神看護学演習】 精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。今年度はアセスメントを充実させる目的で MSE : Mental Status Examination を取り入れたが学生には少し難しかったようである。クライシスプランも新たに取り入れたがこちらは学生に好評で実習でもよく活用していた。また、プロセスレコードの考察について資料の工夫を行なうことで自己洞察への理解が向上した
4.	授業科目名【精神看護学実習】 実習前の事前学習では、精神疾患や治療、精神保健福祉法を含む精神科看護に興味を持ってもらうように工夫した。「精神科ナースになったわけ」等、漫画を使ったものを教材に取り入れ精神看護学実習への関心を高めた。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、現地オリエンテーション・臨地実習とすべて現地で実施することができた。3 施設の実習指導者は、カンファレンスにはほぼ毎日参加していただき、臨地における学生の学びの到達度は高かったと思われる。病棟と教員の連携もスムーズであった。
5.	授業科目名【看護総合演習】 5 人の学生を担当し、精神看護領域の看護総合演習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者を対象とした訪問看護と ACT : Assertive Community Treatment (包括型地域生活支援プログラム) を総合実習の施設として展開した。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケア、ACT に関する文献検討を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。精神障害者の地域ケアについて考察を深めることができた。
6.	授業科目名【看護総合実習】 5 人の学生を担当し、精神看護領域の看護総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者を対象と

	した一般の訪問看護と、重度の精神障がい者を対象とした ACT：Assertive Community Treatment（包括型地域生活支援プログラム）を実習施設として展開した。ACT は、一般的な訪問看護と違い、利用者主体でサービスが提供されるため、より実地的な地域生活支援を学ぶことができ、一般の訪問看護との違いが理解できたようであった。学生の満足度も高かったため、次年度以降も実習施設として活用したい。本科目は 4 年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、実習を進めた。病棟へのアポイント、実習の説明などメンバーで協力して実施することができた。
7.	授業科目名【看護学特論】
	本科目は、成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護論、基礎看護学の 8 つの領域でオムニバスで実施した。そのうちの精神看護学を担当した。精神科におけるオープンダイアログの講義後にグループワークを実施した。昨年より受講学生が増加した。精神科看護の最近のトピックスや国家試験に関連ある内容等を取り入れ本科目の意義を伝えたい。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1984 年 4 月～現在に至る	日本看護学会	
2.	2003 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2003 年 4 月～現在に至る	日本看護研究学会	
4.	2007 年 10 月～現在に至る	日本精神保健看護学会	
5.	2007 年 10 月～現在に至る	日本医学看護学教育学会	
6.	2008 年 4 月～現在に至る	日本精神科看護技術協会	
7.	2008 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					

(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年11月～現在に至る	南ヶ丘病院職員研修	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2024年4月～現在に至る	図書委員会	委員
2.	2024年4月～現在に至る	学力向上委員会	委員長
3.			